

サプライチェーンの可視性を最適化する

2019年10月30日水曜日



絶え間なく変化するテクノロジーと消費者行動の世界で、業界は、サプライチェーンの可視性を高めるための3つの小さな言葉（識別、キャプチャ、共有）が重要な触媒であることを学んでいます。

80年代に見たお気に入りの映画の1つはバック・トゥ・ザ・フューチャーでした。この映画では、風変わりな科学者と十代の若者が、タイムトラベルをすることができるという信じられないような現象を発見します。

実際、時間旅行ができるデロリアンはありませんが、以前の経験から学ぶという利点があります。たとえば、昨年大発生したロメインレタスの微生物汚染の出来事を誰も追体験したいとは思わないでしょうが、これらの教訓に基づき、より安全で追跡可能な食品サプライチェーンの検索を活性化することができます。

食品のトレーサビリティをより理想的な状態にするためには、オープンマインドでやる気のあるサプライチェーンの専門家が未来を視覚化し、共通の目標に向けて段階的なステップを踏む必要があります。チェーン全体のトレーサビリティプログラムが標準であり、サプライチェーンが完全に透明で、すべての生鮮食品の回収が迅速かつ正確に行われる世界への「タイムトラベル」。これらはすべて、GS1 スタンダードを使用することで可能になり、識別、キャプチャ、共有という3つの小さな単語を覚えておいてください。



識別：製品の見方

完璧な世界では、すべてのサプライヤーと製造業者は、収穫または生産される食品にグローバルトレードアイテム番号（GTIN）を割り当てます。これは、サプライチェーンで製品を表示するための最初のステップです。すべてのサプライチェーンパートナーが世界的に認められた GTIN の価値を認識したら、チェーン全体のトレーサビリティを妨げる独自の番号付けシステムは過去のものになります。

同様に、グローバル・ロケーション・ナンバー（GLN）は、農場や畑、梱包工場、製造工場、流通センター、スーパーマーケット、または飲食店などのサプライチェーンパートナーのロケーションの識別番号であるため、より広く使用されます。これらは、サプライチェーンで製品が止まるたびに会社が記録するのに役立ちます。これらの識別子は、動的イベントデータ（製品の作成、出荷、受領、販売など）と一緒に使用され、製品のライフサイクルを追跡するために重要です。それらは、サプライチェーンの可視性の理想的な状態を達成するための最も重要な要素です。場所が特定されない場合、製品に何が起こるかを「見る」ことはできません。

キャプチャ：製品の追跡方法

次に、業界では GS1-128 バーコードを広く採用することになります。GS1-128 バーコードは、識別子を動作させ、トレーサビリティに必要な関連イベントデータを追跡する標準データキャプチャメカニズムです。

理想的な将来の世界では、GS1-128 バーコードは、食品のすべてのケースでその旅の途中のあらゆるストップでスキャンされ、サプライチェーンパートナーシステムを製品の実際のフローに効果的に接続します。GTIN およびバッチ番号、ロット番号、有効期限などのその他の動的な製品情報は、GS1-128 バーコードにエンコードされます。つまり、リコールが発生した場合、サプライチェーン全体が特定の製品の場所を正確に読み取り、消費者の手に渡る前に汚染された製品を簡単に特定することができます。



共有：製品の販売方法

消費者は、製品に関する情報にリアルタイムでアクセスすることをますます期待しているため、将来どのくらい高速にデータを移動する必要があるか想像してください。現在、データの同期を重視することは、サプライチェーンパートナーが消費者に効率的に提供するため、適切なデータを適切な場所で適切なタイミングで利用できるようにする重要な部分です。

グローバル・データ・シンクロナイゼーション・ネットワーク™ (GDSN®) は、取引パートナーが信頼できる製品データをすべての取引パートナーとグローバルに共有できるようにするネットワークです。この自動交換は、正確で完全かつ一貫性のある製品情報に対する新しい消費者の要求を満たすのに役立ち、手動でまたは複数の個別のポータルを介してデータを共有するよりも効率的です。

次のレベルのイノベーション

今では想像するのは難しいと思いますが、より高速なリコールをサポートするためにブロックチェーンがより広く採用される可能性が高いため、GS1 標準に基づく基盤の作成に集中することがさらに重要になります。

今日、多くのブロックチェーンのパイロットプロジェクトは、標準の欠如のために完全な実装に移行していません。サプライチェーンにおけるよりオープンでユニバーサルなデータ共有により、ブロックチェーンを超える多くの将来の進歩が栄えます。たとえば、モノのインターネット技術は、食品の鮮度と温度を監視する能力においてすでに有望です。人工知能は、急成長中のオンライン食料品店で消費者のより大きなパーソナライズをサポートしています。いずれの場合も、サプライチェーンの可視性は「必要なもの」以上のものになります。デジタルトランスフォーメーションを成功させるためには不可欠です。

最終的には、適切な基盤が整っていれば、産業界は協力して次世代の食品サプライチェーンをより安全にすることができます。ブラウン博士はバック・トゥ・ザ・フューチャーの終わりに、「どこに行くのか、道路は必要ない」とよく言っていました。今、このレベルの先見的な思考を奨励し、時代遅れのプロセスを放棄し、食品安全の新時代を現実のものにします。

GS1 US と業界の専門家パネルに参加して、GFSI カンファレンス 2020 での特別セッション「完璧な世界でのトレーサビリティ」に参加してください。各サプライチェーンパートナーが GS1 規格の使用を拡大して、トレーサビリティを有意義にする方法について詳しく説明します。



この投稿は、次の人によって執筆および寄稿されました。

シオバン・オバラ

コミュニティエンゲージメント担当上級副社長

[GS1 US](#)